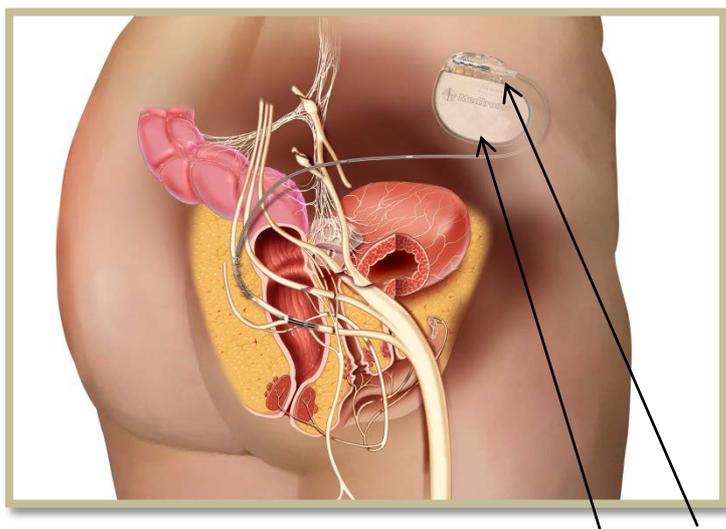


便失禁（便漏れ）に対する新しい治療 仙骨神経刺激療法（SNM）

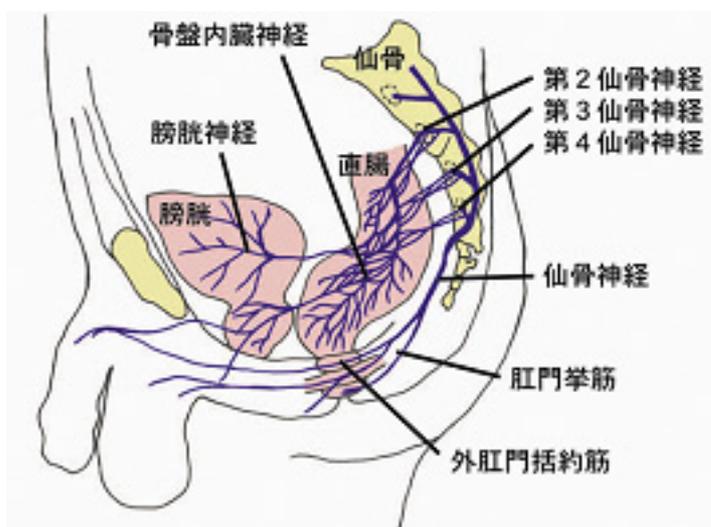
生活の質低下招く便失禁

便失禁患者は、日本に 500 万人以上いると言われていますが、その 82.5%は病院を受診していません。受診しない理由として、恥ずかしい、どうせ治らないだろうといった原因が考えられます。また、受診しても基本的に肛門の絞める力が弱いと薬物療養、便の性状改善だけでは効果に限界があったのは事実です。ところがこれまで諦めていた便失禁に新しい治療法が加わりました。しかも受けた人の 8 割の人が改善するといった結果が得られています。これまで便漏れを心配して諦めていた旅行が、再び楽しい旅行になるかも知れません。その治療法が仙骨神経刺激療法（SNM）です。



電極（リード） 刺激装置

仙骨神経刺激療法の概略



仙骨神経を持続的に刺激することによる便失禁を軽減する治療法です。

仙骨とは骨盤の一部を形成している骨です。仙骨にあいた穴（仙骨孔）から出ている神経が仙骨神経です。

その神経の一部が肛門や膀胱、直腸の動き・感覚を支配しているのです。

小さいマッチ箱（古い？）程度の刺激装置に電極に接続して、おしりの上部皮下に植え込みます。電極の先端は仙骨神経に沿わせます。

どのような症状の患者さんが対象ですか？

便失禁の患者さんが対象です。便失禁には主に2つのタイプがあります。便意を感じることなく、気付かないうちに便が漏れる「漏出性便失禁」と、便意はあるが、トイレまで我慢できずに移動中に漏れてしまう「切迫性便失禁」です。時に両方を有する混合型便失禁もあります。

便失禁の原因には、出産やけがによる肛門括約筋の損傷、直腸脱・潰瘍性大腸炎・クローン病・直腸癌手術後の後遺症、原因がわからない特発性などがあり、仙骨神経刺激療法は多くの便失禁の患者が対象となります。

SNMは薬物療法、生活習慣の改善、骨盤底筋体操など保存的療法で治らなかった患者さんが対象です。

この治療法の実績は？

仙骨神経刺激療法は、欧米では2000年ごろから導入され、これまで約15万人に対して治療が行われており、8割前後の患者に症状の改善がありました。

日本では 2014 年に保険適応となりました。2011 年に日本で臨床試験が行われ、治療を受けた患者 21 人のうち、半年間で 18 人に効果が認められ、便失禁は全体平均で週 15 回から 3 回に減少、4 人は完治しました。

具体的なスケジュール

まずは外来で便失禁の原因・程度を指診・超音波・問診（アンケート形式）などで調べ、SNM 以外の治療法（食生活の改善、薬物療法など）があるかどうかを検討します。2 週間程度、排便日誌をつけていただきます。

SNM が適応の時：入院していただき、全身麻酔にて刺激電極を仙骨の中にある仙骨神経にそって挿入します。2 週間ほど体外型の仮刺激装置に接続して、試験的に仙骨神経を電気刺激します。便失禁の改善がなければ、刺激電極を抜去します（元の状態）。改善があれば、刺激装置（下図：4×5×0.8cm）を電極に接続して、おしりの皮下に植え込みます。初めの頃は電気刺激で少しピリピリしますが、次第に慣れてきます。また電圧の強さは患者さんがリモコンで調節でき、生活に支障がない範囲で電気刺激を設定します。外見上はほとんど分からず、普通に生活できるのが利点です。

電池の寿命のため約 5 年程度で刺激装置の交換が必要となります。



どこの施設でもこの治療を受けられますか？

認定を受けた施設しか行えません。認定施設で、かつ SNM の講習を終了した外科医のみが行えます。

諦めてしまわずに勇気を出して、一度相談だけでもしては？岡山ろうさい病院では腹部外科の山下（外来日：月曜午前、水曜午前）が担当しています。受診希望の方は電話で外科外来にお問い合わせください（総合受付 086-262-0131 から外科外来へ）。